

# 福島県 中学校長会 広報

・会長挨拶「会長職の継続にあたり」.....	1
・第67回福島県中学校長会総会 .....	2
・平成29年度 組織及び役員一覧 .....	2
・学校教育の今日的課題 「学校経営を考える」 .....	3
・平成29年度中学校長会の活動と運営.....	4~5
・第68回全日本中学校長会総会報告 .....	6
・支会情報と特色ある経営 (伊達・郡山・東西しらかわ・北会津) ...	7~10
・新会員紹介 .....	11
・随想「積極的な学校経営を目指して」...	12



## 会長職の継続にあたり

福島県中学校長会長 福地 憲司  
(福島市立福島第四中学校)

私こと、昨年度に引き続き会長を拝命いたしました。微力ではございますが、皆様方のお力添えをいただきながら誠心誠意努めて参りますのでよろしくお願いいたします。

まずもって、本年3月末をもってご勇退されました校長先生方のご功績に敬意を表しますとともに、長年にわたるご指導に対しまして感謝を申し上げます。さらには東日本大震災及び原発事故後の教育の復旧・復興に向けて、様々な視点からご助言をいただきました本会役員の皆様方にも、心より感謝と御礼を申し上げます。

さて、東日本大震災及び原発事故から「6年」が経過いたしました。現在でも3,700人を超える中学生が避難先で学校生活を送っています。避難指示解除などに伴い、相双地区では移転した学校の地元での再開に向けた動きが進んではいるものの、予想される再開後の生徒数の小規模環境への対応等、課題は山積みで未だ学校は厳しい状況のままです。うち臨時休業中の学校においては、それぞれの避難先における生徒の心のケアなどの支援策を講じながら、再開に向けての最大の課題となっている生徒の確保等の条件整備に当たっていると看做されます。

また、県内の各学校においても、様々な課題と向き合いながら、全教職員の英知を結集しながら効果的な教育課程の実施に努めていただいていると看做されます。

そのような中において、昨年度10月14日には、9年ぶりとなる第44回福島県中学校長会研究協議会がいわき市で開催されました。本県中学校教育の一層の充実発展に大きく寄与されたものであり、いわき支会様には、心からの感謝を申し上げます。

ところで現在、本県の学校教育が当面する課題としては、学校再開、心身の健康、放射線教育、

防災教育の推進、新たな教育改革制度への対応など多岐にわたっております。そのような中において、本校長会の運営については、様々な状況下にある各学校の実態を踏まえ、「教育活動の正常化と当面する諸課題の解決」という基本方針の基に、各専門部会を中心に充実した活動を展開しております。

今後、校長は、「学校は復興のシンボルであり、復興の活力源である」ことをさらに肝に銘じ、ふるさと福島の復興と進展に寄与すること、さらに、学校経営の最高責任者としてのリーダーシップを発揮し、教育課程の効果的な運用と教育環境の整備を図りながら、子供達に「生き抜く力」を身につけさせること、これらに努めることが肝要であります。

運営に当たりまして、次の4つの観点を重視して取り組んで参ります。

- 1 校長会は、校長自らの見識・資質等を高める研修の場であることを踏まえ、その成果等の効果的な活用（教育行政への提言等）を推進します。
- 2 「全日中教育ビジョン」を踏まえ、学校からの教育改革に努めます。
- 3 教職員としての誇りと使命感を持ち不祥事の絶無に努めます。
- 4 教育諸条件の整備・充実と教職員の処遇改善に努めます。

以上の4点を柱に、今年度も各支会の活動と連携を図りながら各専門部会の積極的な取り組みを通して、諸課題の解決に向け邁進して参ります。

終わりに、子供たちが郷土への誇りと自信、将来への「夢」と「志」を持ち、本県の復興と発展を担う人材とし成長するために、子供たちに「生き抜く力」そして「未来を切り拓く力」を育めるよう、会員の皆様のご理解とご協力を重ねてお願い申し上げます、再任のあいさつといたします。

# 平成29年度 第67回福島県中学校長会総会

平成29年度の第67回福島県中学校長会総会は、4月19日(水)福島県教育会館において開催されました。

総会では、福地憲司会長の挨拶において、震災・原発事故から6年が経過したが、現在でも3,700人を超える中学生が避難先で学校生活を送っている。避難指示解除などに伴い、地元での学校再開の動きが進んでいるが、再開後の生徒数の小規模環境への対応等、課題は山積し未だ学校は厳しい状況にある。そのような中、昨年10月、県単独では9年ぶりとなる、県中学校長会研究協議会がいわき市で開催され、「生き抜く」ためには「自立」と「協働」に向けた力が必要であることを、研究協議会で校長会としてこのことを確認し合えたことに大きな意義があったと述べられた。

議事に入り平成28年度会務・事業の承認及び決算報告が上程通り承認され、続く平成29年度の役員選出では、満場一致で福地憲司氏(福島市立福島第四中学校)が会長に再任されました。

その後、平成29年度の事業計画及び予算案が審議され原案どおり承認されました。

総会後の小・中合同開会式では、小・中学校を代表して福地中学校長会長があいさつし、続いて来賓を代表して、市町村教育委員会連絡協議会の中村恵子様、元県中学校長会長小林正守様より祝辞を頂きました。最後に、前県小学校長会長福士寛樹氏が退会役員を代表してあいさつをされ、式を閉じました。

また、閉会后福島県教育委員会教育長鈴木淳一様から「頑張る学校応援プラン」について、資料をもとに御講話を頂きました。



## 平成29年度 組織及び役員一覧

※ 理事が2名いる支会(福島・郡山・いわき)の支会長：◎印  
※ 常任理事：○印

役職名	氏名	勤務校
会長	福地 憲 司	福 島 四
副会長	行 財 政	高 橋 卓 夫 梁 川
	研 究	寺 木 誠 伸 若 松 四
	進 路 指 導	折 笠 文 昭 平 一
	生 徒 指 導	飯 村 新 市 郡 山 二
監 事		味 原 悦 雄 郡 山 一
		高 畑 健 一 郎 喜 多 方 一
		小 柳 達 弥 植 田
理 事	福 島	◎○小 針 伸 一 福 島 二
	福 島	福 地 憲 司 福 島 四
	伊 達	高 橋 卓 夫 梁 川
	安 達	佐 原 聡 二 本 松 一
	郡 山	◎飯 村 新 市 郡 山 二
	郡 山	阿 部 博 郡 山 五
	岩 瀬	長 場 壮 夫 須 賀 川 一
	石 川	小 玉 陽 彦 石 川
	田 村	高 橋 秀 章 船 引
	東西しらかわ	○大 越 憲 峰 白 河 中 央
	北 会 津	寺 木 誠 伸 若 松 四
	耶 麻	星 裕 次 郎 塩 川
	両 沼	○井 上 佳 彦 柳 津
	南 会 津	橘 成 美 檜 枝 岐
相 馬	○山 野 辺 藤 夫 中 村 一	
双 葉	笠 井 淳 一 浪 江	
い わ き	◎折 笠 文 昭 平 一	
い わ き	草 野 仁 内 郷 一	

### 【事務局】

事 務 局	事 務 局 長	伊 藤 隆 幸 福 島 一
	行 財 政 部 会 長	神 野 與 信 陵
	研 究 部 会 長	安 斎 康 仁 清 水
	進 路 指 導 部 会 長	西 牧 伸 弘 岳 陽
	生 徒 指 導 部 会 長	渡 辺 康 弘 平 野
	広 報 部 会 長	塚 野 薫 福 島 養
	庶 務	大 越 一 也 北 信
	会 計	斎 藤 剛 蓬 菜

学校教育の今日的課題



# —学校経営を考える—

福島県中学校長会副会長 折笠 文昭  
(いわき市立平第一中学校)

5月に行われた全日本中学校長会総会に参加して、文科省行政説明等から、学校経営に関わる喫緊の課題は少なくないことを再認識しました。また、県教育委員会の新たな施策の学校現場における実施についても、学校経営の視点から先を見通して理解と準備をする必要性を感じています。

## 1 中学校学習指導要領の完全実施に向けて

平成33年度から完全実施されますが、その主旨等を学校全体で理解するとともに、道徳や小学校英語の教科化に対応することは大きな課題であります。

道徳の評価等に関する通知は昨年度に発出されたところであり、今後は学校現場でより具体的な方法等を組織的に検討する必要があります。

また、小学校に英語が教科として導入されれば、指導内容の「移動」もあるでしょうから、教科書の内容によっては小中、さらには高校も含めてその接続について、準備する必要があると考えられます。完全実施前には、小中連携を深め、互見授業等を計画的に実施することなどを経営ビジョンに位置づけスムーズな移行を図ることも有効でしょう。

その際、「主体的・対話的で深い学び(アクティブ・ラーニング)」の視点から学習過程の改善を図り、「何を学ぶか」「何を教えるか」以上に「何を教え」「何を学び」、その結果「何ができるようになるか」をより一層重視することは言うまでもありません。

## 2 学校現場における業務の適正化に向けて

次世代の学校指導体制にふさわしい教職員の在り方と業務改善については、教員の長時間労働の実態を踏まえ、その改善と子どもと向き合う時間の確保のため、文科省や教育委員会で特別委員会等が設置され、検討されはじめました。

業務改善は、学校だけでできることではありま

せんから、行政の方針や社会全体の見方等と連動していかなければなりません。事務職の業務見直しや外部人材の活用についても、行政の提言が待たれます。

これまで、県の教育活動等の適正化プログラム(H10年通知)の実施に努めてきた学校では、今後の行政による業務改善の提案等を踏まえて、たとえば部活動の休養日の設定やその在り方等について、学校としての方針を示すなどの必要性も考えられます。

## 3 あらたな職(副校長・主幹教諭)の活用

県教育委員会の施策である「頑張る学校応援プラン」の実施により、学校マネジメント機能の強化を図るため、新たな職(副校長・主幹教諭)が導入されることが公になりました。

チームとしての対応の幅が広がり、校長は、学校のマネジメントに集中でき、教頭は教職員一人一人に寄り添った指導助言の時間が確保できるなど、その効果は大きいと予想されます。

その効果的な活用のためには、決裁権がある副校長と教頭の職務の整理、管理職を補佐し、担当する校務について一定の責任を持ち、ほかの職員に対して指示することができる主幹教諭と各主任、特に教務主任との職務の整理が求められることになると考えられます。

導入初期には、共通理解と校長の方針の明示が鍵をにぎるものと考えます。

過日、県中学校長会の各支会長による情報交換で、不登校対策が多くの学校で課題になっていることをお聞きしました。今年度はすでに、ビジョンに基づいた教育活動が展開されていますが、次年度以降、外部の機関や人材との連携を含めてビジョンを策定し、組織的対応をより一層推進しなければならぬと感じています。

## 平成29年度

## 「県中学校長会の活動と運営」

事務局長 伊藤 ■幸

現在、本県の教育を取り巻く環境は、児童生徒数の減少や少子高齢化及び過疎化の進行、それに伴う学校の統廃合、そして、高度情報化や国際化の急速な進展など急激に変化しています。さらに、本県の中学校においては、東日本大震災・原子力発電所事故により、現在でも休校2校、移転先で授業を行っている学校が10校という現状があります。平成29年4月1日現在で県外・県内に避難している子ども（18歳未満）は、調査開始後初めて2万人を割り込み、18,910人で、前年10月と比較して1,520人が減少しています。とはいえ、生徒の心身の健康の問題への対応や心のケアの充実、さまざまな状況の中での進路選択など今後も取り組まなければならない課題が山積されている状況にあります。

また、国の一連の教育改革が行われ、平成29年3月に告示された中学校学習指導要領では「社会に開かれた教育課程」、「主体的・対話的で深い学び」の実現、「カリキュラム・マネジメント」の推進が求められるなど学校教育はこれまでにない大きな変革の時期を迎えています。

私たち校長は、これらの社会情勢や災害後の状況を的確に踏まえながら、ふるさと福島の復興の担い手である生徒たちに対し、人間尊重を基盤としながら、社会を「生き抜く力」の育成を目指して、学校経営の充実に努めなければなりません。「学校は復興のシンボルであり、復興の活力源である」ことを再認識し、学校経営の最高責任者としてのリーダーシップを発揮して、学校の自主性・自律性の確立に努め、信頼される学校づくりを進める必要があります。

平成28年3月に全日本中学校長会から「全日中教育ビジョン 学校からの教育改革」改訂版が発

刊されました。その中の第3章では全日本中学校長会から10の提言がなされ、全日中が今後3年以内をめどに取り組むべき具体的な目標として示されています。本県校長会としましても、この提言を受け、本県中学校教育の更なる充実・発展を目指し活動を推進していく必要があります。

今年度の第45回福島県中学校校長会研究協議会は、各支会での研究協議会となりますが、現研究主題での3年次となり、まとめの年となります。昨年度開催された第44回福島県中学校校長会研究協議会いわき大会の成果を生かし、会員の英知と創意を結集して研究協議を行い、校長としての学校経営力の向上の機会となることを期待しています。

また、今年度「福島県中学校70年史」が刊行されます。震災前後を含む10年間の本県教育界激動の歴史を振り返り、今後の県校長会の道筋を考えるために役立てていけるものと考えています。

本年度も各支部での活動や各種調査等を通して本県教育の充実・振興に向けた課題を明確にし、教育行政をはじめ各種団体、関係機関等への働きかけなどを通してより強固な連携を図っていきます。

さらに、全日本中学校長会の研究主題「社会を生き抜く力を身に付け、未来を切り拓く日本人を育てる中学校教育」を受け、8つの小主題を各支会ごとに分担し、実践研究の成果を研究集録としてまとめ、校長としての資質の向上と学校経営の改善に生かしていきます。

今後とも、各支会との連携の強化を図るとともに、県小学校長会や高等学校長協会、その他関係諸機関との連携に努めながら諸課題の解決を目指していきたいと考えています。

会員の皆様の深いご理解とご協力、そして積極的な取り組みをよろしくお願いいたします。

## 専門部会活動の概要

## ● 行財政部会 ●

県小中学校長会の活動方針を踏まえ、互いに連携を密にしながら教育行政上の課題解決のために、組織的・継続的な対策活動を推進する。東日本大震災及び福島第一原子力発電所事故から6年が経過したが、学校現場は復興へ向けて様々な課題を抱えている。その状況を把握し課題解決に向けて対応するために、行財政に関する調査において特別調査を継続して実施する。

## 1 活動の重点

多様な教育活動に対応するための教育諸条件の整備・充実

教職員の待遇改善と福利厚生の上向

当面する重要課題の調査研究と課題解決

## 2 調査研究活動

(1) 平成29年度「教職員人事の反省」

(2) 調査 : 教職員配置等に関する調査

(3) 調査 : 教育施策の実施状況調査

(4) 特別調査: 大震災・原発事故の影響に係る調査  
以上の調査結果を分析し、課題を明確にして要望活動の資料とする。調査結果については、ホームページに掲載するので活用いただきたい。

## 3 要望活動

県中学校長会の福地憲司会長、県小学校長会長の齋藤吉成会長を中心とする要望団を結成し、9月に要望活動を行う。要望先は、福島県人事委員会、福島県議会議員政党等を予定している。要望活動を充実させるためにも不祥事防止については万全を期したい。

## 4 教育懇談等

福島県教育庁関係者との懇談を8月中旬に予定している。アンケート調査をもとに、行政への働きかけをして、課題解決にあたりたい。

(行財政部会長 神野 與)

## ● 研究部会 ●

### 1 共通理解に基づく共同研究の推進

研究主題「社会を生き抜く力を身に付け、未来を切り拓く日本人を育てる中学校教育」を指標とした8小主題による共同研究を推進しています。今年度は3年継続研究の3年次であり、昨年度の研究を踏まえ、各支会ごとの研究協議会開催による3年間の研究のまとめとなります。研究のまとめに当たっては、校長の職務の視点及びリーダーシップの視点に立った成果と課題を考察することになります。なお、次年度は県研究協議会が「県中南ブロック」を会場担当として開催予定になっています。

### 2 研究推進資料の提供と研究集録の編集

各支会ごとに研究を深めながら、年度末には8つの小主題における各担当支会の3年間の研究の取組を研究集録にまとめ、研究の成果を会員相互で共有するとともに今後の研究推進につなげます。また、平成30年度からの新主題に基づく3年次研究にかかる「研究の手引き」を作成します。

### 3 全日中、東北地区中と連携した研究の深化

6月29日、30日に開催された東北地区中岩手大会(第2分科会)で耶麻支会が研究成果を報告しました。また、10月19日、20日の全日中東京大会に参加し、他県の研究推進にかかわる情報を収集し、各支会へ提供します。なお、次年度はいわき支会が東北大会及び全日中大会の発表担当支会となっています。

### 4 原発事故に関わり、学校教育が向き合った課題、対応等の記録の累積と発信

今年度も、研究集録の中に継続して、「ふくしまの今」を設け、特に“双葉支会”を中心に福島県の現状について掲載し、記録を累積することにより、本県の抱える課題等を全会員で共有します。  
(研究部会長 安齋 康仁)

## ● 進路指導部会 ●

### 1 「生き抜く力」をはぐくむキャリア教育の視点にたった進路指導の充実

- (1) 進路指導体制の改善・充実
  - ・進路指導の活性化をめざす校内体制の改善
  - ・新学習指導要領を見据えた進路指導の充実
- (2) 適正な進路指導推進のための資料収集、整備活用の工夫
  - ・情報の収集、整備、活用と進路相談の充実
  - ・特別支援学級等における進路指導の充実を図るための資料収集と実態把握

### 2 高等学校入学者選抜方法の改善に向けた高等学校や関係機関との連携

- (1) 高等学校との連携
  - ・高等学校長協会、私立高校協議会との話し合い活動の推進
- (2) 高等学校入学者選抜方法の改善、提言活動の推進
  - ・県立高校入学者選抜事務調整会議での要望、意見等の資料作成
  - ・新入学者選抜方法・内容に関する情報提供と対応、意見の集約と提言

### 3 適正な進路指導充実のための諸調査の実施と資料提供

- (1) 進路指導に関する諸問題の把握と資料提供
  - ・平成28年度末進路指導に関する調査の分析と連携のための資料提供

- ・平成29年度末進路指導に関する調査
  - ・県下一円の進路動向調査の実施と有効活用
- (2) 学級活動の時間の充実のための副読本編集
    - ・「中学生活と進路(県版)」の編集と活用
  - (3) 就職指導、専修学校・各種学校等の選択指導のための指導助言活動の推進
    - ・就職情報の収集と関係機関との連携強化  
(進路指導部会長 西牧 伸弘)

## ● 生徒指導部会 ●

本県中学校長会として、生徒指導の充実を図るための基盤づくりを強化するとともに、共通理解に立ち、生徒指導の機能をいかすとともに、規範意識を高める指導を重視します。

特に、東日本大震災及び原発事故にかかわる中・長期的な様々な生徒指導上の課題並びにネット端末に関する今日的課題に的確に対応しながら、生徒の心の問題や安全・安心に配慮した対策を施し、保護者・地域に信頼される学校づくりに努めます。

そのための組織の強化として、積極的に関係機関との連携を図る。特に、小学校との連携を重視します。

- 1 高い規範意識と望ましい人間関係を基盤とした集団づくりに努めます。
  - ・連携を生かした一貫性ある学習、生活習慣づくりの推進
  - ・毅然とした指導方針による校内規律の維持、生徒指導の機能を生かした教育活動の充実
- 2 震災、原発事故等にかかわる課題と直面する諸課題の把握、その解決や未然防止に組織を挙げて対応します。
  - ・震災、原発事故にかかわる生徒指導上の問題行動の実態把握
  - ・不登校やいじめ等の実態把握と校内体制の再構築、チームによる組織的な対応
  - ・ネット端末利用状況等の実態把握
  - ・小学校やPTA等と連携したネット端末利用改善への提言と実践
- 3 小学校及び高等学校、家庭、地域、関係機関、団体との連携を強化します。
  - ・情報交換による問題行動の共有
  - ・一貫した基本的学習・生活習慣づくりと規範意識の育成
- 4 生徒手帳を編集、刊行します。  
(生徒指導部会長 渡辺 康弘)

## ● 広報部会 ●

広報部会は、広報誌「福島県中学校長会広報」を年2回発行し、平成24年度より開設したホームページの維持・管理を行い、本会及び関係団体等の活動状況や会員に役立つ新しい情報などを提供し、活用促進を呼びかけ、広報活動の充実に努めます。

- 1 本会及び関係団体等の活動や動向についての情報を提供し、広報活動の充実に努めます。
  - (1) 本会の組織・運営、事業内容、活動状況の報告
  - (2) 各支会の活動及び、本会活動への会員の意見や感想の紹介
  - (3) 関係団体等の活動概要の報告
  - (4) 広報紙の発行とホームページの運営、資料の整理
- 2 関係機関・団体等との連携を深め、情報を提供します。
  - (1) 関係機関からの情報把握と会員への早期周知
  - (2) 諸活動の報告など  
(広報部会長 塚野 薫)

## 第68回 全日本中学校長会総会報告

5月24日・25日に、第68回全日本中学校長会総会が東京都の国立オリンピック記念青少年総合センターで開催され、総会と文部科学省行政説明、講演が行われました。本県校長会からは、福地憲司会長以下12名で出席してきました。

第一日目の午前中に開催された総会では、はじめに榎本智司会長の挨拶、退会役員への表彰楯贈呈、そして文部科学大臣等からの祝辞がありました。会長あいさつではまず、熊本地震への支援、経費削減と活動のスリム化、震災後東北地区で初めて開催された全日中研究協議会宮城大会について、さらに「次期学習指導要領の告示による新たな教育改革の動きについて」「全日中教育ビジョン『学校からの教育改革（改訂版）』の一層の推進」「東日本大震災支援委員会の活動」について話されました。

続いて議事に入り、平成28年度の会務報告・決算について承認され、今年度の役員についての審議では、会長として直田益明氏（世田谷区立芦花中学校）が承認されました。就任の挨拶では、第41代会長として未来ある中学生のために誠心誠意会長としての任務を果たすために校長会の目的を達成すべく、有言実行の全日中校長会として会員とともに歩んで行く上で、特に次の点について抱負を述べられました。

告示された中学校学習指導要領における「社会に開かれた教育課程」「主体的・対話的で深い学び」「カリキュラムマネジメント」への対応などの教育改革の推進

「社会を生き抜く力」を育む教育の推進と学校づくりに向けてのリーダーシップ

全日中教育ビジョン「学校からの教育改革」を踏まえての運営方針と活動の重点

その後、平成29年度の活動方針・予算が承認され、中学校教育70周年記念大会となる平成29年度第68回全日中研究協議会東京大会への対応と、第69回全日本中学校長会研究協議会主題及び分科会

研究題についての提案と、宣言と決議を採択して議事を終わりました。午後は文部科学省の行政説明が児童生徒課・特別支援教育課からあり、総会を閉じました。

2日目には、「当面する初等中等教育上の諸課題」の演題のもと、文部科学省初等中等教育局長藤原誠氏による講演がありました。マスコミにおける文部科学省の話題に触れながら次のような内容に言及されました。

教育再生実行会議について

小中一貫教育の推進について

教員の資質能力の向上について

公立学校教職員の人事行政について

教員の政治的行為の禁止等について

夜間中学の設置・充実に向けて

部活動指導員について

体育活動中の事故防止について

地域とともにある学校づくりについて

全国学力・学習状況調査等について

国際学力調査について

全国体力・運動能力、運動習慣調査について

第3期教育振興基本計画諮問の概要

学校安全推進計画について

引き続き行われた、文部科学省行政説明では、全611頁の資料をもとに初等中等局財務課長、教育課程課長、国際教育課長の3氏から、国の教育の施策及び動向について説明がありました。



# 支会情報と特色ある経営

## 伊 達

### 伊達支会の活動



伊達支会長 高橋 卓夫  
(伊達市立梁川中学校)

伊達支会は、伊達市、桑折町、国見町の3市町の計8校の中学校長で組織し、活動しています。今年度は、転入1名、新任1名の2名

を新しい会員として迎え、情報交換を密にし、各学校の学校経営の充実や教育課題の解決を目指して、諸会議や研修を実施しております。

地区小学校長会21名とともに「伊達地区小・中学校長協議会」を組織して、一体となって活動しています。

#### 1 伊達地区小・中学校長協議会の開催

年7回開催し、地区の学校教育の充実を図ることを目的とし、「教育改革期における学校組織マネジメントの確立と推進」を基本テーマにかかげ、校長一人一人の職務遂行能力の向上を目指して研修に取り組んでいます。

新任校長や転任校長も多数おり、中学校区毎の校長としての学校経営・運営ビジョンを持ち寄っての研修を行っています。

#### 2 中学校長会の開催

定例会を中心に、学校運営上の課題解決や情報交換、中教研、中体連、県校長会の部会の確認等を行い、支会全体で充実した学校経営を目指しています。

また、研究部を中心に、時代の要請に応えるために、「健康・安全教育」について校長としての効果的な実践に取り組んでいます。

#### 3 その他の活動

支会内の高等学校長との情報交換会

支会内の教育長との教育懇談会

教職員研修講座の開設(7回)

教員採用試験受験者への激励会

「伊達は一つ」を合い言葉とし、支会会員全員が一致協力して活動しています。

## 《学校紹介》

### 防災リーダー育成プロジェクト

伊達市立伊達中学校

本校は、平成27年度より福島大学うつくしま未来支援センター主催の「防災リーダー育成プロジェクト」に参加しています。参加者は、生徒会役員を中心に30～40名程度の希望者で構成され、放課後、土・日を中心に活動しています。

このプロジェクトの目的より構成されている4つの主な活動内容を平成28年度のプログラムに沿って紹介します。

(1) 様々な災害を知る：「講義」「災害地視察」  
国内外で起きた災害について学び、宮城県石巻市の被災・復興の様子を視察する。

(2) 命を守る方法を知る：「防災対応キャンプ」  
防災時に必要な技能を習得するため、体験を通して学ぶ。(フォレストパークあだだら)

(3) 実践力を高める：「避難所運営実践プログラム」

本校体育館で、HUG(避難所運営ゲーム)と連動させた避難所運営を模擬体験する。

(4) 学んだことを伝える：「まとめ・発信」  
一年間学んだことを、地域に発信(2月)するとともに、作成した「防災かるた」で遊びを通して地元の小学生に発信する。



上の写真は、熊本地震で被災した宇土高校生との交流が実現し、本校でのHUG体験の様子です

このプロジェクトや多くの人との交流を通し、生徒たちの「主体性・リーダー性」が育ちつつあること、また、その輪が、全校生にも広がりつつあることを実感しています。

(校長 鈴木 昭夫)

## 郡山

## 郡山支会情報



郡山支会長 飯村 新市  
(郡山市立郡山第二中学校)

郡山支会は、29校（内私立1校）で組織され、和やかな雰囲気の中で連携を密にしながら活力ある運営をしています。今年度は7名

が他管内や行政から転入し、校種間異動2名を含め9名の校長先生方を迎えて新たな組織でスタートしました。

県内初の義務教育学校として、平成30年4月に西田学園義務教育学校が開校する予定で、小中一貫教育による多様性のある弾力的な義務教育の実践が期待されるところです。その開校に併せて市内では小中連携の機運が高まっており、現在各中学校区に於いて学区内小学校と教育課程も含めて具体的な連携対策を講じ、確かな学力向上を図ろうとしています。校長会の中で、情報交換を密にしながら実効性のある小中連携に取り組んでいきたいと思ひます。

それでは、今年度の主な活動を紹介します。

#### 1 定例校長会について

定例会は年6回行い、5専門部及び5団体の活動報告、喫緊の課題や生徒指導などに関する情報交換や協議等、共通理解を密に図りながら進めています。

#### 2 中高特の連携について

年2回、中高特連絡協議会を開催し、進路指導や生徒指導等について、意見交換を行い課題解決のための連携を図っています。

#### 3 市教委との連携について

「学びの型」を中心とした学力向上や学習基盤となる「学級力」の向上について、小学校と連携して全校をあげて取り組んでいます。

#### 4 学力向上対策について

中教研と連携しながら学力向上対策委員会を組織し、国語、数学、英語について、年度ごとに教科を替えて、作成した検証問題を全校で実施し、分析結果をもとに「授業改善の指針」を提示しています。

## 《学校紹介》

## 確かな『自立』(主体性の確立)を目指して

郡山第一中学校

本校が昭和23年9月6日に開校して以来、69年間ずっと引き継がれてきている建学精神は『自立』(主体性の確立)です。校歌の中に「社会の中にならわれは立てり」「登るは自主の丘の上」とあるように、生徒が自ら考え、自ら判断し、自ら行動できることを求めています。この建学精神は、本校を卒業してから40数年以上も経っていても、私の体の中にしっかりとすり込まれています。郡山一中の建学精神である自立性を育み、一層確かなものにするための一環として、完全ノーチャイムを実施したいと、平成27年4月に着任して以来ずっと思っていました。

着任した年の11月に学区内にある鶴見坦町内会の創立60周年記念式典に際し、本校に何か寄贈したいというお話があり、迷わず電波時計をお願いしました。すると電波時計66台のご寄贈があり、校舎内の時計を全て電波時計に替えることができました。校舎内の何処に居ても正確な時間が分かるようになりました。

物理的な条件が揃ったためノーチャイム実施の提案をしましたが、先生方からは不安視するいろいろな意見が出たため、教育課程編成会議、企画委員会や職員会議などとおしてノーチャイムを実施することにより、子どもたちが時間を見ながら次に何をすべきなのかを考える、この繰り返しにより、生徒の自立が確かなものになることが期待できることを訴え続けました。生徒や保護者に趣旨を説明した後、平成28年度1学期から、ノーチャイムを計画的、段階的に実施し、3学期は完全ノーチャイムを実施しました。今年度も完全ノーチャイムを目指し計画的、段階的に実施しています。本校の新たな伝統にしたいと思ひます。



(校長 味原 悦雄)





## 東西しらかわ支会の活動

東西しらかわ支会長 大越 憲峰  
(白河市立白河中央中学校)



本支会は「会員相互の親和、会員の職能向上、そして地区中学校の振興に寄与すること」を目的とし、18校の会員で組織されています。今春、5名が退職、3

名が他管内や行政等に転出し、新たに昇任者3名を含め8名の校長先生方をお迎えしました。転入した8名の内6名は管内出身者であり、行政や他管内の校長経験者です。残る2名が他管内地教委からの昇任者という頼もしい布陣でスタートしました。

本支会では、教職員数の減少に伴い合理的な組織運営を図るために、県中学校長会理事会の承認をいただき、平成25年度から東白川支会と西白河支会を統合しスタートしました。その先駆けとして中体連が動き出し、平成19年度に第1回東西しらかわ中学校陸上競技大会と東西しらかわ中学校駅伝競走大会を開催し、平成24年度に新人総合大会の開催で統合の完成を見ました。平成27年度には中教研、平成28年度に事務研と続き、現在、小学校長会が平成30年度統合に向けて協議を重ねていると聞いています。このように校長会、教育関係団体の「東白川」と「西白河」の統合が進み、名実ともに「東西は一つ」になろうとしております。

現在、学力向上、いじめ・不登校防止、生徒数減少に派生する諸問題、大量退職に伴う人材育成、さらには教員の長時間労働の解消など、校長として解決すべき課題が山積しています。

これらの課題に対して、支会の研修会を中心に互いの胸襟を開いて情報や意見を交換し合い、共同体意識を持って課題解決に向けて取り組んでいきたいと考えています。

そして、支会18校が切磋琢磨しながら各会員のリーダーシップのもと「地域が誇れる学校」をつくるため、共に尽力して参りたいと考えます。

## 《学校紹介》

### 地域と共に

白河市立五箇中学校

本校の特色ある実践の一つは、幼小中連携推進事業です。五箇地区の子どもたちの12年間の成長を計画的に支援し、豊かな人間性の育成と確かな学力の定着を図ることを目的として取り組んでいます。「幼稚園年少組から小学2年生」「小学3年生から中学3年生」の2つの段階に分けて、それぞれに目指す子どもの姿を明確に示し、様々な活動に取り組んでいます。

主な取組として、合同授業研究会の定期的な開催があります。授業参観を通して、目指す子どもの姿を共有し、目的の具現化に向けて協議を深めて、次の実践へと生かしていきます。

もう一つの特色として、地域との連携が挙げられます。本校では、毎年、校内駅伝大会を行っています。この駅伝大会は、60年以上の長い歴史をもち、五箇全地区を10区間に分けて、生徒、PTAがチームをつくり競います。生徒チームには、小学6年生も加わります。

地域の方々には、運営面で協力をいただき、応援も含め、地域が一体となり盛り上がる行事です。この活動を通して、地区の一員としての自覚が深まり、地区ボランティア等への参加にも意欲的になります。

子どもたちは、地域の方々の多くの温かな目に見守られ、安心感をもって、様々な活動に取り組んでいます。この体制をより強固なものとして、教職員一丸となり、今後も地域の特色を生かした実践を進めていきます。



(校長 三森 浩晶)

## 北会津

## 北会津支会の活動



北会津支会長 寺木 誠伸  
(会津若松市立第四中学校)

北会津支会は会津若松市、磐梯町、猪苗代町の15校で構成されています。中学校長会の組織として会津全域では、各支会に加えて、会津小中学校長協議会、全会津中高校長協議会があり、北会津支会はそれぞれの会において事務局等を担いながら中心的な役割を果たしています。その中の全会津中高校長連絡協議会では、今年度の特別な取り組みとして、中央の大手進学塾の講師を招き、大学入試改革に向けた取り組みについて学ぶことにより、中高それぞれが3年後を見据えた授業改革をスタートする強い思いを持っています。

さて、本支会の最も特色ある活動としては、毎年夏季研修会において、3つの市と町をローテーションで持ち回りの会場として、自己研修を深めています。研修内容は、研究テーマに基づいた校長相互の研究実践の中間報告が中心になりますが、毎年、各市と町の教育長様方による講話や専門職員の方による講義をいただき、識見を高めています。特に、地域の歴史・文化を学び理解を深めることにより校長としての教養を高めることは、1つの学校を預かり、多くの生徒、教職員に対して責任を持つ立場として、とても重要であると認識しております。今年度は、県立博物館を会場として、会津若松市教育長様の講話、研究部会、そして県立博物館の主任学芸員による「博物館と学校教育をつなぎ児童・生徒の学びを高める教育活動」などをテーマに会員相互の研修を深める予定です。

最後になりますが、北会津支会が最も大切にしていることは、校長会の横の連携です。お互いの学校経営の特徴を交換し合いよりよい学校経営を目指すことと、各校で起こる様々な問題をオープンに相談し合い、校長それぞれの豊かな経験を出し合うことにより解決に導く、実効ある会であることです。今後も各校の生徒の成長により貢献できる活動に努めていきたいと思っております。

## 《学校紹介》

## 「五中生ですから」を合い言葉に

会津若松市立第五中学校

本校は、普通学級が14、特別支援学級1の計15学級、全校生徒435名の中規模校です。学校の周辺には田畑が広がり、地域住民にも「おらが学校」意識が残っています。

全教職員が全校生徒の指導に当たることを意識し、次のような取り組みを重点に実践しています。

## 1 部活動の活性化による生活習慣の確立

学校近くに市の体育館、陸上競技場、テニスコートなどがあり部活動への参加を積極的に奨励し、顧問も現場指導を徹底した結果、礼儀やマナーが向上し、思いやりや感謝の心も育ってきています。

## 2 地域行事への積極的な参加

門田地区の運動会や敬老会、鶴ヶ城ハーフマラソン大会等に部活動単位で積極的に参加・協力し、地域の一員であることの自覚と日頃の感謝を伝える場としています。

## 3 学校行事の工夫

各学期に行われる学校行事の内容を工夫し、生徒が前面に出て活躍できる場と機会を与えて実践しています。特に、1学期に行われる校内陸上大会においては、陸上の種目のほかに「みんなでジャンプ」「ミニ駅伝」を実施し、1年生から3年生まで一つになって応援し合い、全校生徒が心をつにじた活動ができ、生徒や教職員、保護者・地域の方々が感動を共有しています。



「ミニ駅伝」のゴール場面

これらの教育活動を通して、本校の生徒であることに誇りを持ち、日常の実践の中で賞賛や感謝の言葉をかけられたときに、さりげなく「五中生ですから」と返答できるように努めています。ちなみに、この言葉を最初に発した生徒は、現在高校2年生で小学校の時に相双地区から転入してきた生徒でした。

(校長 君島 秀夫)

## 新会員紹介

支会	氏名	校名	支会	氏名	校名	支会	氏名	校名
福島	古川 豊	西根	田村	早川 俊也	船引南	南会津	小林 稔	南会津
福島	齋藤 仁道	山木屋	田村	橋本 誉弘	移	南会津	長沼 敬貴	下郷
福島	菅野 浩智	附属	田村	角田 健司	岩江	双葉	藤巻 国孝	津島
伊達	杉山 忠彦	霊山	東	三森 浩晶	五箇	双葉	佐藤 武	葛尾
安達	佐川 仁邦	岩代	東	土屋 好二	中島	双葉	目黒 信浩	双葉
安達	渡邊 正仁	東和	東	草野 仁	矢祭	双葉	中潟 宏昭	富岡一
安達	鈴木 豊	大玉	北会津	佐久間 一晃	湊	双葉	高瀬 永志	広野
安達	大和田 康夫	本宮一	北会津	渡辺 哲雄	吾妻	いわき	松本 仁志	豊間
安達	橋本 公秀	本宮二	耶麻	小島 靖	山都	いわき	大野 勝彦	桶売
岩瀬	湯田 公夫	仁井田	耶麻	岡崎 秀一	裏磐梯	いわき	須藤 瑞穂	三和
岩瀬	深谷 昇司	岩瀬	両沼	佐藤 信行	金山	いわき	若松 真一	勿来二
田村	田中 淳一	都路	両沼	小杉 一浩	昭和			

## 新会員の声

### 初心を忘れず

川俣町立山木屋中学校 齋藤 仁道

生徒の歌声に感動した着任式から、あっという間に1学期が過ぎようとしています。4月1日に着任し、校長として最初にしたことは校歌を「読む」ことでした。校歌にはその学校が目指す教育の姿が端的に示されているからです。

本校の校歌には、山木屋の豊かな自然の中で、高い目標に向けて力強く歩いてほしいという願いが表現されています。現在も、昭和22年の開校以来ずっと引き継がれている校歌に託された言葉の意味を、その都度、生徒に伝えています。

震災、原発事故から6年が過ぎ、今年の3月31日に山木屋地区の避難指示が解除されました。復興への第一歩として平成30年4月に開校する山木屋小中一貫校の準備も行われています。そのような状況の中、避難最後の1年を充実させようと生徒は何事にも前向きに取り組んでいます。

校歌にあるスズランの花言葉は「幸福の再来」。スズランが咲く山木屋での生活は6年以上実現されていませんが、不自由で困難の多い状況にも関わらず笑顔を決やさず、目標を見失わない生徒たち。このような生徒一人一人のために、校長としての初心を忘れることなく、生徒の可能性を磨き成長させる学校づくりを目指します。

### 合言葉は「チーム湊」

会津若松市立湊中学校 佐久間一晃

北に磐梯山を望み、東に猪苗代湖が広がる湊中学校にこの4月1日に着任しました。初めての会津の地での教員生活に、校長職という新たなスタートは緊張感でいっぱいでした。しかし教職員や生徒に温かな歓迎を受け、とても嬉しく安心しました。今年度の転入職員は私だけで、その夜の職員クラブ歓迎会では質問攻めでしたが...

着任式や入学式における生徒やPTA会長、同窓会長のあいさつで共通した言葉がありました。それが「チーム湊」です。教職員・生徒・保護者・地域が一体となって教育活動に取り組んでいる様子がひしひしと伝わり、感激しました。実際に学校の活動とPTA、地域との連携はたくさんあります。例えば湊町の花であるサギ草の植栽教室では公民館の方から丁寧にご指導いただきました。

この「チーム湊」という言葉は全校で何か行う時には必ず合言葉のように出てきます。みんなで1つの目標に向かって「本気で楽しく」取り組む姿勢を生かす学校づくりに校長として尽力していきたいと思えます。現在は、復興支援プロジェクトとして始まり「湊ザイル」と命名された「ライジングサン」のダンス練習に全校で取り組んでいます。みんなに励まされ、私も「チーム湊」の一員として練習に何とか参加しています。こちらも頑張ります。

新採用の頃は、教科の1時間毎の細案を夜遅くまでかけて子どもたちの顔を思い浮かべながらノートに書き、翌日授業を行っていました。そのノートを今読み返してみると、稚拙な内容であるが、教育に対する自分なりの熱意が伝わってきます。

また、部活動においても活動時間の3倍は練習方法や理論を学べという先輩の薫陶を受け、書籍を読みあさったり、先輩に助言を求めたりと、部活の子どもたちの期待に応えようと昼夜を問わず意欲的に取り組んでいました。

新任校長の頃は、教職員に目標や思いを示し、生徒や保護者から「この学校でよかった」と思われる学校を目指し、国や県の施策、マネジメントについての書籍や先輩校長の学校経営の方針やアドバイスを真剣に聴き、使命感と責任感を持って毎日勤務していました。校長として、自分は何がやれるのか。当時感銘を受けた著者に「森信三」先生の教えの中から自分が毎日実践できることを決めました。

校長から先に生徒や教職員に挨拶をする。校長が下足箱の生徒の履き物をそろえる。自転車置き場に行って校長自ら自転車をそろえる。授業見学に戻る。部活動を見て回る。

以上のことを毎日できる限り実践していました。

残り2年を切った今、毎日の職務に追われていることに満足し、自分自身の学びに対する姿勢が不十分ではないかと、自問自答しています。

校長職は、大変な職責であるが、やり甲斐のある職である。極めがいのある仕事でもある。

今の学校でも私の前には、16代の先輩校長が勤めていました。時代時代で教職員と子どもたち・保護者との数々の出会いが生み出されたと思います。私が着任してどうだろうか。

今校長として、学校の教育目標の具現化に主体的に参画し、意識の共有化や職務改善等が全職員に図られ、組織的・効率的に教育活動が充実するよう機会を利用して全職員に話をしています。

以前先輩校長からいわれた言葉を思い出します。「会長」とか「校長」という肩書きが付くと、よりいっそう、低姿勢で、温かい思いやりの心を持つよう肝に銘じなさい。生徒や先生方のためにと一生懸命なときほど視野が狭くなりがちになる。

初めは「少しでもさせていただこう」という謙虚な心だったのが、いつの間にか、「俺がしてやっているんだ」という高慢な心になってしまう。知らず知らずのうちに鼻が高くなってしまふ。だから「代表世話人は、代表して皆さんのお世話をさせていただいている存在」なんだと思って、取り組ませていただいている。

また、定期的に「心のねじ」を締め直す必要もある。校長室や職員室での顔つきや、言葉遣い、自分

が出しているたよりや文章などから、「してやっているんだ」という、ねじのゆるみをしっかり見つけては、注意していかないと誰も付いてこない。

よいことが起こると「俺の努力の成果だ」と勘違いして、悪いことが起これば「これはのせいだ」と他に責任を負わせようとする。試練にたたされるときこそ、普段から世話になっている人たちへの感謝の心を思い返し、互いに助け合う心を発揮していかなければならない。

校長は、「あがり」の職ではない。よりよい学校づくりのために労を惜しまず、常に高みを目指さなければならぬと感じています。校長としてまだまだであるという自戒の念を持ち、向上心を実践していく覚悟です。

## 随想



福島県中学校長会副会長  
高橋卓夫  
(伊達市立梁川中学校)

積極的な学校経営を  
目指して